

生徒の非行化を阻止するために学校が独自にとりうる措置と、 家庭・関係機関・地域社会との連携（V）

—卒業生への体験質問票調査による「非行化の波」の狭間の解明—

金丸 純二 木本 一成 中尾 佳行 畑 浩人

1 課題：昭和から平成へと至る「波間」を検証

適切な生徒指導には生徒の副次文化の動向や個別事例の実態把握が先決である。我々は一地方の大学附属学校を拠点にして、学校内外で生徒の問題行動に関する各種調査を進めてきている。

今年度は、学校が荒れていた2つの時期—1980年代前半と90年代後半—の学園状況には量的及び質的に差異があったという前年度調査（文献1）からの知見を前提として、それらの合間に当たる時期を対象に同様の質問票調査を行った。この補充作業により、過去20年以上にわたる問題行動の変遷過程を確固たる証拠に基づいて確認することができた。

以下、今回の調査とその知見を紹介する。

2 アンケート調査の方法と経緯

今回も前回とほぼ同じ要領で附属三原中学校卒業生を対象にした無作為抽出の質問票調査を郵送により行った。

前回は1982年から87年までと1997年から2002年までの合計12年度分の卒業生を対象にしたので、今回はその間の1988年3月卒業生から1996年3月卒業生までの9回生分を対象にした。母集団は9年間の卒業生約720名となる。そして、各学年2学級・約80名ずつの連絡先が掲載されている卒業生名簿（文献2）から、各学年男女10名ずつを下記の要領で抽出した結果、各学年20名の9学年分、合計180名へ質問票を郵送した。

今回の調査では、名簿情報の未更新¹⁾や卒業後の転居による不到達を減らすために、あらかじめ最新の住宅地図（文献3）によって発送先の住居表示が確認できた卒業生のみを対象を絞って発送した²⁾。地元の地図のみを利用した結果、三原市民に対象がやや偏る傾

向が感じられたものの、もともと生徒の大多数は三原市在住者であり、また市町村合併により市域が拡大しているため、歪みとまではいえないだろう。また、学年によっては男女10名ずつ約20名を少し越える程度しか所在確認ができないような例も生じたので、回顧調査としては、ひとまず妥当な方法と言えよう。

質問票（文献1：501-504）³⁾は盆休み直前の2007年8月12日に発送した。すると6通が転居先不明などの理由で戻ってきたため、発送対象を後順位の者に変更して再発送した。依頼文では9月末をいちおうの返信期限にしておいたものの、その後も回収し、10月末までの到着分64通を今回は集計した。

その結果、表1（後掲）のような回答率となった。回答者の規模（30名強）により9年度分を4年間と5年間の2つの時期に分けて整理した。

回答率の分布については、年度や性別による差異があるものの、全体的には前回同様に3分の1前後であった。学年毎の代表性までは主張できないものの、数年単位で丸めれば、簡易な統計処理と分析が可能な程度の回答が集まったとはいえるだろう。

3 調査結果の概要

〈類型別の時系列表化〉

回答のうち数量化が可能な部分は、前回の数字と併せて表2から表31までの各クロス表にした。

それぞれの回答分布を比率にし、卒業年代4つと性別をかけあわせた8類型に分けて整理した⁴⁾。これにより、およその経年変化と性別による現象認識の差異が浮き彫りにされるだろう。

〈各時期における問題行動の有無〉

まずは、4つの時期における問題行動の有無を確認

Junji Kanamaru, Kazunari Kimoto, Yoshiyuki Nakao, Hiroto Hata. The School's Proper Actions and its Cooperation with its Students' Families, the Related Agencies, and their Community in Order to Prevent its Students from Turning to Wrongdoings: the Questionnaire Research on the Drift between Two Delinquent Waves in the Early 1980s and Late 90s to the Graduates of a Junior High School Affiliated with a University.

していく。

表2から表9までに挙げた問題行動の各類型は、主に第4期(97年以降)の逸脱行動を基にした。授業の中抜け(表2)、遅刻(表3)については、以前は散見される程度だったが、第4期には頻繁だった時期が

あり、目撃される頻度も高くなっている。つぎに、校内喫煙(表4)、校外喫煙(表5)については、未成年の喫煙は違法行動なので、するとすれば隠れて行うためか、従来はせいぜい伝聞情報程度だったが、第4期には目撃されるようになっている。空き家への侵

表1 質問票調査の回答率

卒業年	1988年	1989年	1990年	1991年	合計		
郵送数	20	20	20	20	80		
到達数	20	20	20	20	80		
うち女性	10	10	10	10	40		
回答数	8	13	5	5	31		
うち女性	4	7	3	3	17		
回答率	40%	65%	25%	25%	39%		
女性回答率	40%	70%	30%	30%	43%		
男性回答率	40%	60%	20%	20%	35%		

卒業年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	合計	総計
郵送数	20	20	20	20	20	100	180
到達数	20	20	20	20	20	100	180
回答数	6	7	5	5	10	33	64
うち女性	3	3	4	2	5	17	34
回答率	30%	35%	25%	25%	50%	33%	36%
女性回答率	30%	30%	40%	20%	50%	34%	38%
男性回答率	30%	40%	10%	30%	50%	32%	33%

表2 授業中の抜け出し

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	12%	0%	0%	88%	17
1988-91卒・男	0%	7%	0%	0%	93%	14
1992-96卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	17
1992-96卒・男	0%	13%	0%	0%	88%	16
1997-02卒・女	19%	38%	8%	0%	35%	26
1997-02卒・男	15%	45%	0%	0%	40%	20

表3 授業への遅刻

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	13%	13%	0%	75%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	17
1988-91卒・男	0%	7%	0%	0%	93%	14
1992-96卒・女	0%	29%	0%	0%	71%	17
1992-96卒・男	0%	13%	0%	0%	88%	16
1997-02卒・女	12%	40%	0%	0%	48%	25
1997-02卒・男	19%	24%	5%	0%	52%	21

表4 学校内喫煙

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	13%	0%	88%	16
1982-87卒・男	0%	8%	0%	0%	92%	13
1988-91卒・女	0%	0%	17%	6%	78%	18
1988-91卒・男	0%	7%	0%	0%	93%	14
1992-96卒・女	0%	6%	6%	0%	88%	16
1992-96卒・男	0%	0%	13%	0%	88%	16
1997-02卒・女	4%	38%	23%	0%	35%	26
1997-02卒・男	10%	19%	29%	5%	38%	21

入（表6）は、各次期1名程度の目撃・伝聞なので少ない。校内でのガラス割り（表7）は、皆無に近い状態だったのが、第3期（1992-96年）と第4期になっ

て目撃例が出てきている。校内での消火器発射（表8）も稀な伝聞程度だったのが、第4期には目撃例が出た。構内の設備・備品の破壊（表9）については、物によ

表5 学校外喫煙

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	13%	6%	0%	81%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	0%	18%	0%	82%	17
1988-91卒・男	0%	7%	0%	0%	93%	14
1992-96卒・女	0%	0%	12%	0%	88%	17
1992-96卒・男	0%	6%	6%	0%	88%	16
1997-02卒・女	8%	38%	19%	0%	35%	26
1997-02卒・男	14%	29%	29%	0%	29%	21

表6 校外空き家への出入り

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	16
1982-87卒・男	0%	8%	0%	0%	92%	13
1988-91卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1988-91卒・男	0%	0%	7%	0%	93%	14
1992-96卒・女	0%	6%	6%	0%	88%	17
1992-96卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	16
1997-02卒・女	0%	4%	8%	0%	88%	26
1997-02卒・男	0%	5%	10%	0%	85%	20

表7 学校内のガラス割り

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	0%	6%	0%	94%	17
1988-91卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	14
1992-96卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1992-96卒・男	13%	0%	0%	6%	81%	16
1997-02卒・女	0%	19%	23%	0%	58%	26
1997-02卒・男	5%	33%	0%	0%	62%	21

表8 学校内の消火器発射

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	16
1982-87卒・男	0%	0%	8%	0%	92%	13
1988-91卒・女	0%	0%	6%	0%	94%	17
1988-91卒・男	0%	7%	7%	0%	86%	14
1992-96卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1992-96卒・男	0%	0%	6%	0%	94%	16
1997-02卒・女	0%	12%	15%	0%	73%	26
1997-02卒・男	0%	24%	10%	0%	67%	21

表9 学校内の設備・備品を破壊

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	8%	92%	13
1988-91卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	17
1988-91卒・男	0%	14%	0%	0%	86%	14
1992-96卒・女	0%	0%	0%	6%	94%	17
1992-96卒・男	6%	0%	0%	6%	88%	16
1997-02卒・女	0%	35%	12%	0%	54%	26
1997-02卒・男	5%	19%	14%	5%	57%	21

って異なるだろうが、散見程度の問題行動だったのが、やはり第4期には目撃体験がやや増えている。

このとおり、第1期（1982-87年）や第2期（1988-91年）については、回答者の忘却の影響もあるかもしれないが、ひとまずは第4期の特異性を示唆する結果となっている。

そして、学校内での暴力や喧嘩（表10）については、80年代には性差を維持しながら一定の目撃例があったものの、第3期には、やや目撃の頻度が下がっている。その後、第4期には目撃例が最も増えた形で戻り、また、性差も減っている。

授業中の教員の体罰（表11）に関しては、確かに80

年代にはかなり常態化していたようであるが、90年代には頻度は減少しているものの、完全に消滅したわけではない。また、休み時間中の体罰（表12）とは、素行の矯正など生徒指導の場面を想定した質問であったが、これも一貫して散見されている。

これに対して、教員に対する暴力行為（表13）が第4期には目に見える形で発生し、教師に対する悪態や暴言（表14）も第4期に多くなっている。前回調査でも確認したように世代間で学校の雰囲気は全く異なっているのだといえる。教員側の説明としては、特定の教員に対する事例ではないかという。確かに第2期と第3期については、悪態の具体例がほとんど挙が

表10 学校内の生徒間暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	6%	13%	0%	81%	16
1982-87卒・男	0%	54%	0%	0%	46%	13
1988-91卒・女	0%	24%	6%	0%	71%	17
1988-91卒・男	0%	57%	0%	0%	43%	14
1992-96卒・女	0%	12%	6%	0%	82%	17
1992-96卒・男	0%	27%	0%	0%	73%	15
1997-02卒・女	0%	46%	19%	0%	35%	26
1997-02卒・男	14%	52%	5%	0%	29%	21

表11 授業中の教員による暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	25%	25%	0%	0%	50%	16
1982-87卒・男	17%	58%	0%	0%	25%	12
1988-91卒・女	12%	47%	0%	0%	41%	17
1988-91卒・男	14%	79%	0%	0%	7%	14
1992-96卒・女	6%	41%	6%	0%	47%	17
1992-96卒・男	0%	50%	0%	0%	50%	16
1997-02卒・女	0%	35%	4%	0%	62%	26
1997-02卒・男	5%	43%	5%	0%	48%	21

表12 休み時間中の教員による暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	13%	0%	0%	0%	88%	16
1982-87卒・男	0%	38%	0%	0%	62%	13
1988-91卒・女	0%	18%	0%	0%	82%	17
1988-91卒・男	0%	36%	0%	0%	64%	14
1992-96卒・女	0%	18%	0%	0%	82%	17
1992-96卒・男	6%	38%	0%	0%	56%	16
1997-02卒・女	0%	27%	0%	0%	73%	26
1997-02卒・男	5%	24%	14%	0%	57%	21

表13 学校内での対教師暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1988-91卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	14
1992-96卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1992-96卒・男	0%	0%	13%	0%	88%	16
1997-02卒・女	0%	19%	12%	0%	69%	26
1997-02卒・男	0%	19%	10%	0%	71%	21

らなかったで、第3期までに散見されてきたのは記憶に残らない陰口や軽口といった程度のものであったのかもしれない。

学校外での教員の体罰(表15)というのは、校外巡回での遭遇(表19)と併せて、生徒指導の徹底さを確認する意図で尋ねたものである。校則の強化などにより生徒指導態勢を確立させた第3期には、確かに校外指導が散見されたりしており、以後も遭遇例が維持されている。

問題行動類型の確認の最後として、校外での逸脱行動をとりあげた。校外での暴力行為(表16)は、さすがに一部生徒による散見・伝聞程度で推移してきてい

る。

中学生のバイク無免許運転(表17)については第4期特有の現象と言えよう。教員側も、中学生が通学にバイクを使用するわけでもなく、また、校外までは目が届かないので、噂を聴くことは稀にあるが、あまり目撃しないという。

万引き行為(表18)は、伝聞としては以前からあるので一部で隠れて行うことは稀にあったようであるが、やはり第4期には目撃されてしまっており独特である。教員によれば、最近では夏休み前の指導として警察署から学校に少年育成官が来訪して講話を行うという。また、万引き行為は学力などに関係なく行うので、

表14 学校内での対教師悪態

	よく見た	たまに見た	友人から聴いた	教員から聴いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	19%	0%	0%	81%	16
1982-87卒・男	0%	23%	8%	0%	69%	13
1988-91卒・女	0%	35%	0%	0%	65%	17
1988-91卒・男	7%	14%	0%	0%	79%	14
1992-96卒・女	0%	6%	6%	0%	88%	16
1992-96卒・男	6%	19%	0%	0%	75%	16
1997-02卒・女	27%	42%	4%	0%	27%	26
1997-02卒・男	43%	33%	5%	0%	19%	21

表15 学校外での教員による暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聴いた	教員から聴いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	12%	0%	0%	88%	17
1988-91卒・男	0%	14%	7%	0%	79%	14
1992-96卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	17
1992-96卒・男	7%	0%	0%	0%	93%	15
1997-02卒・女	0%	0%	4%	0%	96%	26
1997-02卒・男	0%	5%	0%	0%	95%	21

表16 学校外での生徒による暴力

	よく見た	たまに見た	友人から聴いた	教員から聴いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	13%	0%	88%	16
1982-87卒・男	0%	8%	23%	0%	69%	13
1988-91卒・女	0%	6%	0%	0%	94%	17
1988-91卒・男	0%	14%	0%	0%	86%	14
1992-96卒・女	0%	0%	6%	0%	94%	17
1992-96卒・男	0%	13%	13%	0%	75%	16
1997-02卒・女	0%	15%	12%	0%	73%	26
1997-02卒・男	5%	10%	14%	0%	71%	21

表17 生徒のバイク運転

	よく見た	たまに見た	友人から聴いた	教員から聴いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	6%	0%	94%	16
1982-87卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	13
1988-91卒・女	0%	0%	0%	0%	100%	17
1988-91卒・男	0%	0%	0%	0%	100%	14
1992-96卒・女	0%	0%	6%	0%	94%	17
1992-96卒・男	0%	6%	0%	0%	94%	16
1997-02卒・女	0%	23%	23%	0%	54%	26
1997-02卒・男	5%	14%	19%	0%	62%	21

小学校中学年時の躰や指導に左右されるのではないかと
いう。

〈規律の乱れの認識〉

表20と表21は、学校生活における規律の乱れについて
自他に分けて尋ねたものである。自己よりも周囲の
ほうが逸脱していると感じるのは常識人対象のアンケ
ート結果としては当然であるが、第1期の男子は逸脱
感覚がすこぶる鈍くなっている。実は教員の「客観的」
認識では第1期こそが一番荒れていた時期だったはず
なのであるが、当事者の「主観的」な記憶のなかでは
合理化されたり、古き良き思い出として致命的でない

行状は肯定的に評価されているのかもしれない。他方、
第3期は、第2期における規律徹底の成果であろうか、
比較的落ち着いている。さらに、第4期（自己）や第
1期（周囲）の女子については、規律に対する感受性
に性差がみられるので、事例に則した分析・解明が必
要であろう。

一方、他校における規律の乱れ（表22）については、
問B6の回答によれば、もともと交流が少ないという
ので情報不足かもしれないが、外見上は自校と比較し
てかなり乱れを感じていたようである。ただし、第3
期にはやや乱れの印象が減っている所以他校でも比較

表18 生徒の万引き

	よく見た	たまに見た	友人から聞いた	教員から聞いた	なし	標本数
1982-87卒・女	0%	0%	19%	0%	81%	16
1982-87卒・男	0%	8%	15%	0%	77%	13
1988-91卒・女	0%	0%	18%	0%	82%	17
1988-91卒・男	7%	0%	21%	0%	71%	14
1992-96卒・女	0%	0%	33%	6%	61%	18
1992-96卒・男	0%	6%	25%	0%	69%	16
1997-02卒・女	12%	23%	31%	0%	35%	26
1997-02卒・男	5%	5%	48%	0%	43%	21

表19 地域行事での教師巡回遭遇

	よく遭遇	たまに遭遇	なし	行事不参加	標本数
1982-87卒・女	0%	31%	56%	13%	16
1982-87卒・男	0%	23%	69%	8%	13
1988-91卒・女	12%	24%	59%	6%	17
1988-91卒・男	0%	50%	36%	14%	14
1992-96卒・女	6%	29%	41%	24%	17
1992-96卒・男	6%	44%	50%	0%	16
1997-02卒・女	4%	46%	46%	4%	26
1997-02卒・男	5%	43%	48%	5%	21

表20 当時の学校生活の規律の乱れ感覚～自分につ
いて

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	13%	88%	16
1982-87卒・男	0%	100%	13
1988-91卒・女	12%	88%	17
1988-91卒・男	14%	86%	14
1992-96卒・女	6%	94%	17
1992-96卒・男	6%	94%	16
1997-02卒・女	35%	65%	26
1997-02卒・男	15%	85%	20

表21 当時の学校生活の規律の乱れ感覚～周囲につ
いて

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	38%	63%	16
1982-87卒・男	8%	92%	13
1988-91卒・女	29%	71%	17
1988-91卒・男	21%	79%	14
1992-96卒・女	12%	88%	17
1992-96卒・男	6%	94%	16
1997-02卒・女	58%	42%	26
1997-02卒・男	52%	48%	21

表22 当時の学校生活の規律の乱れ感覚～他校について

	感じた	感じなかった	わからない	標本数
1982-87卒・女	69%	6%	25%	16
1982-87卒・男	46%	8%	46%	13
1988-91卒・女	65%	0%	35%	17
1988-91卒・男	50%	7%	43%	14
1992-96卒・女	29%	18%	53%	17
1992-96卒・男	38%	31%	31%	16
1997-02卒・女	46%	12%	42%	26
1997-02卒・男	52%	10%	38%	21

的落ち着いていたのかもしれない。

さらに、学校外での規律の乱れを通学途上など（表23）、自宅近隣（表24）、成人の社会一般（表25）という形で地理的範囲を変えながら尋ねてみた。これらは本来、荒れ認識の伝播過程を裏付ける方法を模索するために試みた質問群であるが、標本数の少なさから年度ごとの分析ができないため、次期間の分布比較しかできていない。

総じて、自他の学校生活の認識と比較して、学校外は乱れの印象が薄い（とくに第3期）。ただし、一部に感受性の高い時期や性差もみられるので、これらの質問群に対する回答パターンの類型化も含め、規律認

表23 学校外における規律の乱れ

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	25%	75%	16
1982-87卒・男	15%	85%	13
1988-91卒・女	18%	82%	17
1988-91卒・男	43%	57%	14
1992-96卒・女	6%	94%	16
1992-96卒・男	19%	81%	16
1997-02卒・女	27%	73%	26
1997-02卒・男	24%	76%	21

表24 自宅近隣における規律の乱れ

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	19%	81%	16
1982-87卒・男	15%	85%	13
1988-91卒・女	29%	71%	17
1988-91卒・男	29%	71%	14
1992-96卒・女	6%	94%	17
1992-96卒・男	13%	88%	16
1997-02卒・女	15%	85%	26
1997-02卒・男	19%	81%	21

表25 成人社会一般における規律の乱れ

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	44%	56%	16
1982-87卒・男	23%	77%	13
1988-91卒・女	6%	94%	16
1988-91卒・男	7%	93%	14
1992-96卒・女	6%	94%	17
1992-96卒・男	13%	88%	16
1997-02卒・女	23%	77%	26
1997-02卒・男	10%	90%	21

識の立体的構造については今後も分析作業を進めなければならない。

なお、表27では、青少年に関する荒廃した社会的風潮に対する当時の感覚について尋ねたが、これはメディアの影響を想定したものであるせい、直接体験からの印象を問うた先の問題群の回答よりは感銘度が高くなっている。

〈卒業生による学校評価〉

表26は、教員の生徒指導態勢に関する卒業生の印象である。総じて半数以上が厳しく感じ、また理由のある指導として印象もよいのであるが、第4期の男子のみに寛大な印象が残っているので、その限りでは指導態勢が緩んでいたともいえる。他方、生徒指導方針の変化（表28）については、学年毎に指導態勢を維持した隊列Cohort効果のせい、総じて印象は薄く、かえって第4期の一部男子に気づいた者が多い。

表29と表30は、それぞれ授業と生活指導の効果に対する評価を尋ねたものであるが、第1期や第2期に否定的評価が少ないところをみると、人生経験による累積効果があるのかもしれない。とくに生活指導に関す

表27 青少年に関する荒廃した社会的風潮の感覚

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	44%	56%	16
1982-87卒・男	15%	85%	13
1988-91卒・女	47%	53%	17
1988-91卒・男	29%	71%	14
1992-96卒・女	24%	76%	17
1992-96卒・男	38%	63%	16
1997-02卒・女	50%	50%	26
1997-02卒・男	33%	67%	21

表28 学校内の生徒指導方針の変化

	感じた	感じなかった	標本数
1982-87卒・女	0%	100%	15
1982-87卒・男	8%	92%	13
1988-91卒・女	6%	94%	17
1988-91卒・男	7%	93%	14
1992-96卒・女	12%	88%	17
1992-96卒・男	6%	94%	16
1997-02卒・女	15%	85%	26
1997-02卒・男	33%	67%	21

表26 教員側の生徒指導態勢

	厳しかった	寛大だった	とくに記憶なし	標本数
1982-87卒・女	44%	13%	44%	16
1982-87卒・男	58%	17%	25%	12
1988-91卒・女	56%	22%	22%	18
1988-91卒・男	50%	29%	21%	14
1992-96卒・女	53%	18%	29%	17
1992-96卒・男	53%	24%	24%	17
1997-02卒・女	42%	27%	31%	26
1997-02卒・男	14%	52%	33%	21

る第1期と第2期・第3期との差異は、生徒指導強化の影響であろう。第4期は指導も緩み、回答者の人生経験もまだ少ないので学習効果の認識がまだ低いのであろう。

なお、教員の説明では、そもそも素行が良好な生徒には生活指導をしていないし、また、大人しい生徒には一部の生徒の指導をする際に正座説教などで連帯して責任を負わせたり、関連のない話を延々と聞かせることになるので、多数の生徒には生徒指導が良い印象を持たれていないかもしれないという。その結果、その後の生活において「役立つ」とか「気づかない」という回答に繋がるわけである。ただし、記述回答では感謝の言辞も多かった。

最後に、面接調査への協力姿勢(表31)である。半数前後が協力的なのは愛校心の表れであろうか。ただし、第3期の女子に拒否の態度が強いので、ちょうど20代後半の不安定な時期に該当しているのかもしれないが、非協力的態度の原因究明も必要であろう。

〈小 括〉

今回の卒業生調査により1980年ころから2002年まで

の約22年間の体験回顧データがつながり、この間の経緯や変遷について貴重な概観が得られた。ほぼ教員側の認識通り生徒指導の緩急と合致するものであった。すなわち、1980年代前半に全国的な趨勢と同様な荒れの時期があり、これに対しては80年代後半に校則強化などで生徒指導態勢を確立した。その結果、90年代前半の中学校段階では表面的に安定したかのようにみえたものの、この間に指導態勢に対する矛盾や批判が強まり⁵⁾、90年代後半に入ると、緩やかな手段での生徒指導が通じなくなった。さらには、問題行動の内容も悪びれない公然性や備品の損壊などが生じるようになったことが例証されている。

4 今後の課題

まず、経年変化の概観をえるという当初の目的は達成できたものの、記述回答も含む収集データにはまだ分析の余地がたくさん残っている。とくに選択肢回答をつなげて回答パタンのモデル化がめざされなければならないし、今回の質問票調査では具体性のある事例報告が少なかったため、さらに面接調査で記述に厚み

表29 授業の効果に対する評価

	役立っている	役立たない	気づかない	標本数
1982-87卒・女	67%	0%	33%	15
1982-87卒・男	75%	0%	25%	12
1988-91卒・女	59%	0%	41%	17
1988-91卒・男	57%	0%	43%	14
1992-96卒・女	41%	6%	53%	17
1992-96卒・男	63%	6%	31%	16
1997-02卒・女	46%	12%	42%	26
1997-02卒・男	43%	10%	48%	21

表30 生活指導の効果に対する評価

	役立っている	役立たない	気づかない	標本数
1982-87卒・女	33%	0%	67%	15
1982-87卒・男	38%	0%	62%	13
1988-91卒・女	59%	0%	41%	17
1988-91卒・男	64%	14%	21%	14
1992-96卒・女	50%	6%	44%	16
1992-96卒・男	53%	13%	33%	15
1997-02卒・女	23%	19%	58%	26
1997-02卒・男	29%	10%	62%	21

表31 面接調査への協力

	してもよい	できない	したくない	標本数
1982-87卒・女	50%	43%	7%	14
1982-87卒・男	64%	9%	27%	11
1988-91卒・女	53%	33%	13%	15
1988-91卒・男	43%	29%	29%	14
1992-96卒・女	24%	35%	41%	17
1992-96卒・男	40%	40%	20%	15
1997-02卒・女	43%	33%	24%	21
1997-02卒・男	52%	43%	5%	21

を増さねばならないだろう。

つぎに、心理学的なアプローチからも、生徒文化を構成して数量化し、その生徒指導との関連や学校内部の人間関係の動態が実証的に研究されている(文献5)ので、同様な方法による検証作業を我々もしておくべきかもしれない。

最後に、三原市その周辺の社会経済的及び文化的変容が附属学校へ及ぼしている影響についても当然あるはずなので、それらの大きな社会学的因子も本稿のってきたささやかな社会史的なアプローチに取り込んでいくことが喫緊の課題であろう。

〈注 釈〉

1) とくに卒業生名簿では、近年、自治体で採用が進んできている住居表示ではなく、旧来の地番形式のままの住所記載が多い。

2) また、名簿上の地番は古い住宅地図(文献4)により可能な限り位置を特定したうえで、それを最新の住宅地図と対照して、地図上の戸別表記で所在確認をすることにより宛名を住居表示に変換した。本来は、昨年一部で行ったように、市役所の住民基本台帳に関する住居表示変換帳簿らしきものを参照することにより、表示変更や居住者を逐一確認することも可能ではあったが、数も多く、窓口にて相当煩瑣な手作業となるため、住宅地図の対照という代替方法を採用した。

3) 今回の変更点は、次のとおり。

用紙をA4版裏表ホチキス止め4頁からA3版2つ折のリーフレット型に変更した。これによる読み飛ばしなどの回答欠落はなかった。

質問の文言や構造については前回とほぼ同じで、4点ほど変更した。

問A1のaからrまで18個連続する質問群の小見出しを濃い文字にした。

問A2から問9にかけて前後の質問内容との差異を強調するために文章の一部に下線を引いた。

問A9の「荒廃した社会的風潮」を問A7の成人社会一般と混同しないよう「荒廃した青少年の風潮」という文言に書き換えた。

問B9に面接可能な場合の「とくに語りたい項目」に関する記述欄を半行分設けた。

4) 標本数というのは、ほぼ回答者数のことであるが、

選択肢を複数回答した例が10あったので、その両方を集計で取り上げた分、標本数が回答者数よりも多くなっている場合がある。

5) 1990年代前半ころの生徒指導態勢の弱体化については、まだ教員側の精確な回顧ができていない。さしあたりは、頭髪規制などに関する校則裁判が1980年代からあり、各地で校則規制が生徒の自己決定権との関係で問題化していたこと、1990年3月には広島県安浦町で小学生教え子殺害事件が発生し、1990年7月には福岡市の中学校教諭による生き埋め体罰、神戸市の高校で校門圧死の不祥事があり、1991年7月には三原市内でも風の子学園において折檻死があったことなど厳しい指導が失敗して問題化したという背景事情を確認しておくにとどめる。その後、福岡県の附属高校で1995年7月に発生した女生徒体罰死事件の頃には学校不信の雰囲気や生徒指導に対する慎重な態度が生じ、もうすでに生徒と教員間の意思疎通がうまくいかなくなっていたのかもしれない。

〈参考文献〉

- 1 金丸純二ほか「生徒の非行化を阻止するために学校が独自にとりうる措置と、家庭・関係機関・地域社会との連携(Ⅳ):1980年代と90年代の『非行化の波』2つを卒業生の体験聴取から検証する」学部・附属学校共同研究紀要35号495-504頁(2007年)
- 2 広島大学附属三原学園同窓会名簿編集委員会『同窓会会員名簿』附属三原学園同窓会(2001年)
- 3 『ゼンリン住宅地図 三原市1 旧三原市』(ゼンリン, 2007年)
- 4 『戸別記入住宅地図64 三原市(付本郷町)』(有限会社日本出版社福山営業所 出版年不明 ¥8,500)
- 5 加藤弘通『問題行動と学校の荒れ』(ナカニシヤ出版, 2007年), 占部慎一『子どもたちの逸脱・非行』(学文社, 2007年)

謝辞: 今回も、否定的な項目内容について詳細な記述を求めるといふ煩瑣な質問票であったにもかかわらず、好意的に真摯な回答を母校に寄せてくださった卒業生の皆様に厚くお礼申し上げます。